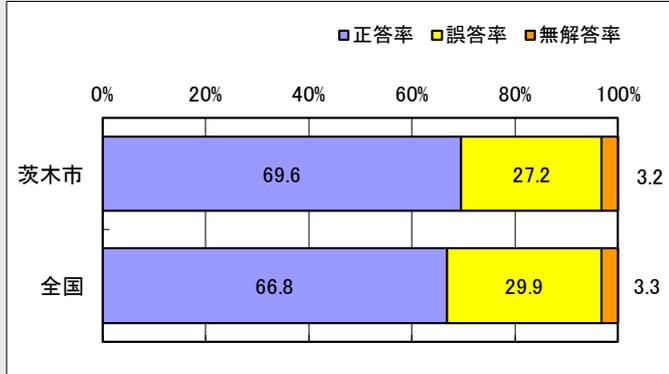


正答率比較

平均正答率は、全国を2.8ポイント上回った

令和7年度 小学校国語 正答率等比較

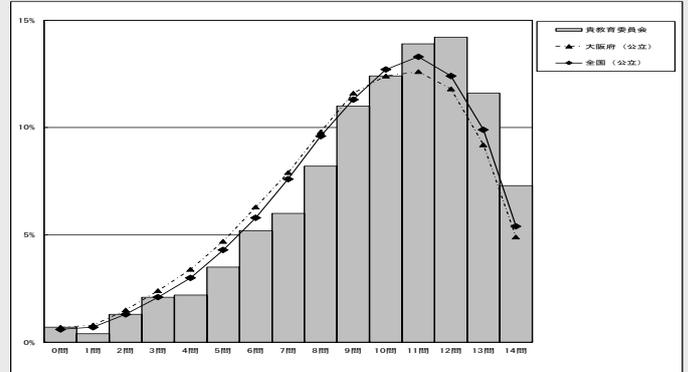


- ◆ 全国の平均正答率が 66.8%であるのに対し、茨木市では 69.6%で、全国を 2.8 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 2.7 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.1 ポイント低い。

正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

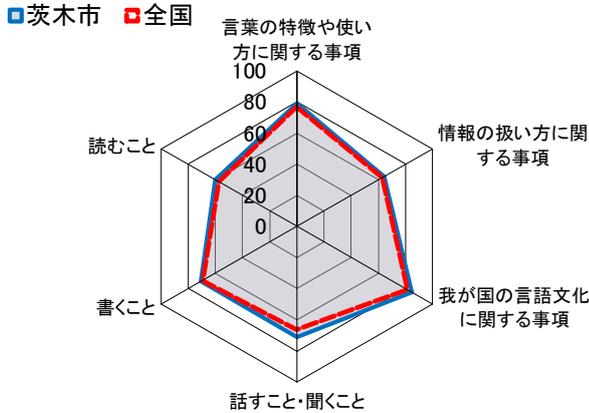
令和7年度 小学校国語 正答数分布グラフ



- ◆ 全国は 11 問、茨木市は 12 問正解の児童の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~5問正解)の生徒の割合は 10.2%である。(内 20%以下(0~2問正解)の生徒の割合は 2.4%)
- ◆ 正答率 80%以上(12~14問正解)の生徒の割合は 33.1%である。

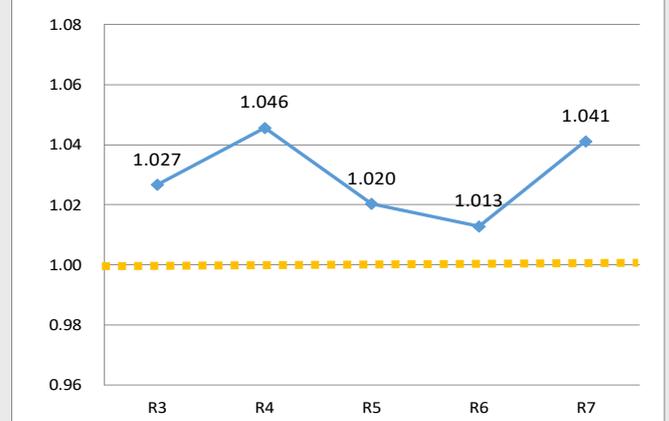
領域別

令和7年度 小学校国語 レーダーチャート



正答率経年比較

過去5年の正答率の推移(対全国比)



課題があった設問

○伝統工芸品について推薦するちらしを書く (正答率 59.9%)

- 2 山田さんの学級では、伝統工芸品についてすいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてすいせんする文章を、次の【ちらし】に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。
- 三 山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、【ちらし】の二重線部をくわしくかいたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【ちらし】の二重線部を書き直し、くわしくすること。(一文でなくてもよい)
- 【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

正答例) 何回か折って本を包むと、ブックカバーになり、よごれがつくのを防ぐことができます。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水てきが荷物につくのを防ぐことができます。

正答の条件 ※次の条件を満たして解答している。

- ①【ちらし】の二重線部を書き直し、詳しくしている。
- ②【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。
 - a 〈本を読んで分かったこと〉
 - b 〈使ってみて分かったこと〉
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。

解答類型	反応率 (%)	正答
条件①、②a、bの両方、③を満たしているもの	59.9	◎
条件①、②a、bの両方は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.6	
条件①、②aは満たしているが、条件②bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	9.1	
条件①、②bは満たしているが、条件②aは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	13.3	
条件①は満たしているが、条件②a、bは共に満たしていないもの 7.8 *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	8.0	
上記以外の解答	4.6	
無解答	4.5	

【この問題で求められている力】

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

☆【ちらし】や【調べたこと】の情報から伝えたいことをくわしく書き直す設問。無解答率は比較的少なかった。

→教科書だけでなく、多くの本や書物から、情報を把握し、書いてあることを自分でまとめたり、まとめた文を詳しくするなどの活動を意識的に取り入れていくことでこれらの力を伸ばすことができる。

【国語についての今後の指導のポイントとして】

友達と話し合い、読み手の立場から「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」ということを中心にアドバイスし合う場面を設定すると効果的ですが、実際どのようにアドバイスすればいいのか子どもたちがわかるようにすることが大切です。

モデルとして 詳しくする前後の文章を提示することで、詳しくすることのよさを実感できるようにし、アドバイスし合う具体的なイメージを子どもたちと共有することが考えられる。

こういった魅力的な言語活動の設定や資質能力を育成する単元計画の好事例を、言語力向上に取り組むモデル校等から各学校へ広げていく。

また、学校図書館教育や、調べ学習等の取組みを引き続き継続・充実していく。